

R6 上期入試 出題意図

問題 1

この問題は、情報科学研究、特に教育メディア研究を志す受験生が、Adaptive learning の観点から、教育におけるテクノロジー活用に関して、諸所の理論と実践を理解し、自身の専門性を踏まえながら応用的に議論できる能力を評価するものです。特に、Adaptive learning の概念を理解した上で、プログラミング教育やアルゴリズム学習など、Computer Science Education における特有の文脈に応用する際の課題と可能性について自身の関心に関連させて考察することが求められます。また、Adaptive learning を Computer Science Education に応用する際に生じる技術的・教育的課題について、先端テクノロジーの最新動向や自身が有する専門的知識をもとに包括的に考察ができるか、修士研究を進める上で必要となる知識や論理的思考力を有しているかを評価しています。

問題 2

この問題は、特別支援教育に関する政策的・理論的理解と、それを自分の研究文脈で捉え直す能力、そして限られた字数で論理的に表現する能力を評価するものです。設問 (1) では、障害者権利条約に基づくインクルーシブ教育の概念

の理解を前提に、文部科学省の資料から引用された「連続性のある多様な学びの場」や「一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導」などの概念を踏まえながら、教育学的・社会的・倫理的観点から、インクルーシブ教育の意義を独自の視点で論じることが求められています。一方、設問(2)では、インクルーシブ教育の概念を単に理解するだけでなく、それを自分の研究テーマやアプローチにどう関連づけ、発展させることができるかという、研究者としての独創性と応用力を評価しています。

問題3

大学院でメディア研究を行うためには、基礎的なメディア論的思考を獲得していることが求められます。本問題では、メディア論の古典的な文献であるジョシュア・メイロヴィッツの“*No Sense of Place*”を題材として、メディアのあり方を多面的に捉えるという基本的なメディア論的思考ができているかを問うています。メイロヴィッツはメディア様式が人々を包摂すると同時に排除すると論じていますが、アカデミックな原著論文の読解能力とともに、著者の見解を自らの研究上の関心に照らし合わせて適切な解釈ができているかどうか問われています。また、メディアによって構築された情報システムが人々の社会

参画にどのような影響を与えているのかについて論理的な議論展開ができるかどうかを試しています。

問題 4

メディア研究を志すには、さまざまな批評理論を応用する力が必要となります。本問題は、主要な批評理論のひとつであるポストコロニアリズムの考え方を障害（ろう）の文化研究に応用した英文テキストを題材として、理論的な思考の訓練ができているかを試すものです。ポストコロニアルの理論が、歴史上の植民地主義だけでなく、支配と被支配の権力関係、他者性の排除などにかかわる事象一般に応用可能だと理解できていることが期待されます。設問（1）では、アカデミックな英語で書かれた問題文の内容を正しく理解したうえで、論理的に自分の考えを説明できる能力が求められます。（2）ではさらに、著者の理論的アプローチを自分の研究上の関心と結びつけて説明できることが求められます。